

令和3年10月8日

## 議会政策サポーター政策提言書 「飯綱町の輝く人口増対策」

飯綱町議会第5次政策サポーター会議  
担当：総務産業常任委員会

この政策提言は、議会が設置した政策サポーター制度の第5次分で、総務産業常任委員会が分担したテーマである。

6名の住民の方々に政策サポーターを依頼し、住民と議会の協働作業により自由な議論の中から2回の会議とコロナウイルス発生により集まることで感染拡大にならないよう、2回の書面による提案を受けて検討重ねてまとめて導き出した提言である。

サポーターと議員の生の声であり、真摯に受け止めてこれからの飯綱町の施策に活かして欲しい。

### 空き家、空き別荘を活用した人口増対策

#### □提言

人口減少社会を迎え、当町でも空き家、空き別荘が増加傾向にある。空き家は、適切な管理がなされないまま放置されると、犯罪、衛生、景観等の面において、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす可能性も高く、社会問題化している。そこで安価で、移住者が自ら使いやすくリフォームできる、空き家、空き別荘を活用した人口増対策を提言する。

- 「1」 町が空き家を定期借家権により公費で改修し、移住者や、Iターン者に貸し出し、賃料で改修費を補填する。25年住み続ければ敷地ごと無償で譲り受けられる対策を検討してほしい。
- 「2」 東高原の別荘や福井団地の空き家住宅の活用を推進し、医療、交通など広域連携事業が大事だ。例えば、家賃は長野市内より安くし、通勤費を賄える仕組みに、長野市郊外の立地を生かしたPRを展開してほしい。
- 「3」 新規就農移住者には納屋付き空き家を提供し、米、野菜、季節の果物など1年分支給。また一般移住者には家賃補助、引越費用補助金、家庭菜園、ガーデニング付住宅など移住者のニーズにあった提供を検討してほしい。
- 「4」 ポツンの移住者は、肩身の狭い思いがある。移住者専用の小さな地域共同体ができる土地分譲を検討してほしい。
- 「5」 地区によっては移住者をよそ者扱いや、個人のプライバシーに関することなどの詮索があり、移住者にはつらい思いがある。住民の人は移住者を温かく受け入れ、定住できるよう区長、組長会議に提案し、協力体制を構築してほしい。

- 「6」 将来空き家になることが予想される場合は、売買するにあたり引越し先がない人のために、お年寄りが住むアパートがあれば生前譲渡することで、空き家対策になると思うので啓発してほしい。
- 「7」 町内での働く場として、テレワークができる環境整備を今以上に充実させるため、空き家、空き別荘の活用を検討してほしい。

## 空き店舗を活用した人口増対策

### □提言

長野県塩尻市の公務員が空き店舗を自腹で借り「稼がない公益事業」を実践し、交流を創出「稼ぐ収益事業」を誘発した成功例です。成功の鍵は、「稼ぐ収益事業」と「稼がない公益事業」に分けた連携が必要で、一方にしか価値が無いと考える偏見は、町や人の可能性を潰すということ。

仕組みは、代表の公務員が市役所内で仲間を募り、各自が月々1,000円位の運営資金を自腹を切って払い、商店街の空き店舗を借りて「稼がない公益事業」を運営する。「時間は公務時間外の夜と土日」副業という仕組みの制約から、晩御飯を食べる会など、参加費は実費のみで運営。商店街の賑わい向上という目的の成果は出ており、空き店舗で起業する若者が3組ほど現れる成果もでてい

る。当町の商店主も自分の子供だけを後継者に考えるのではなく、第三者に経営移譲し空き店舗をなくす努力が必要。空き店舗を活用した人口増対策を提言する。

- 「1」 魅力ある内容の店舗や行ってみたいくなる品揃えの多い店、隣接した駐車場整備をすることで利便性が確保され人流ができ、買い物客の増が期待できるので検討してほしい。
- 「2」 1階を共同店舗として、2階をアパートやシェアハウスの居住施設にして提供するような、賑わいのある町づくりを検討してほしい。

## 若者が定住できる人口増対策

### □提言

かつては、東京などの大都市の企業で働くことは若者にとってある意味「ステータス」だった。

特に高度成長期以降では、平成バブル期においてその傾向は顕著であり、大都会への人口集中が加速化された。その結果地方においては若者の人口が減少したため、過疎化の進行と労働者不足による税収不足や高齢化が指摘されるようになってきた。

しかしながら平成バブル崩壊後、給与が減少する傾向が続いている。そのため、大都市での高い生活費が収支を圧迫することになり、無理をしてまで都会に住むのが負担とを感じる方が増えてきているという点も指摘されている。

親世代が苦勞したことを子の世代は覚えているはずですが、そのことが若者の価値観に影響を与えている可能性は否定できない。

若者定住に欠かせないのが、働く場所の確保や利便性が重要と考え、若者が定住できる人口増対策を提言する。

- 「1」 荒廢地を利用し積極的に企業誘致を行い、大型商店の屋外には子供向けの魚のつかみ取りや、小動物との触れ合い広場を併設することで、長野市からも利用者が訪れるような魅力ある総合店舗にし、職場の確保や町との関係人口にもおおいに期待でき、若者定住や移住者の確保になる。町の独自性ある施策を展開してほしい。
- 「2」 町から人が出ていかない対策として、北しなの鉄道の運賃助成があれば効果があると考え。また、2から3世帯住宅を進めていく対策の推進拡大を検討してほしい。

## 特化したまちづくり

### □提言

森林整備は災害を未然に防ぎ、CO<sub>2</sub>の吸収や酸素の生産など多面的機能により快適な環境形成の役割や、野鳥の生息など多岐にわたり効果が期待できる。

- 「1」 国は2050年にはゼロカーボンを目指している。当町もCO<sub>2</sub>削減に向けたエネルギー施策を進め安心して生活できる町、有酸素運動で健康を回復し楽しめる町、呼吸系疾患患者の住みやすい町のPRをしてほしい。
- 「2」 町内のロケーションの良い場所を選定し、青地農地を白地に（特区）として農振除外し開発可能にして、移住促進や企業誘致を展開してほしい。
- 「3」 鳥獣害対策交付金の事業を活用し、鳥獣侵入防止柵管理や鳥獣害緩衝地帯の整備を行う。整備には巨木の伐採等があり、事故防止のために林業従事者を育成し、この整備事業に充てる、また、道路の支障木や農地の支障木除去もでき、仕事場の確保に繋がるので検討してほしい。
- 「4」 定住のみにこだわらず、新旧住民相互の理解を深める交流を促進し、関係人口を増やすことを更に拡充してほしい。

## サポーターからの意見

- 「1」 子供を育てるにはお金がかかる。子育て支援として、18歳以下の子供を持つ母親の医療費免除の施策がほしい。
- 「2」 町の空き家等へ入居してもらうため、へき地在住の人にも飯綱町の良さをPRしてほしい。
- 「3」 移住者の声をもっと聴いてほしい。
- 「4」 家を探して空き家バンクを調べたがなかった。見つけるのが大変だった。見つかるまでに2年かかった。若い人にはシェアハウスが有効ではないか。

- 「5」 以前、住むための家探しに2年かかった。その苦勞を知ってほしかった。
- 「6」 北しなの鉄道運賃値上げがあり、町からの補助金を考えてほしい。
- 「7」 利便性から考え電車の本数を増やし運賃が安くなることに期待して、自分の子供を外に出さない様にしたい。
- 「8」 空き家の仏壇と神棚の処分に困った。
- 「9」 町営住宅は家賃が高いと思う。
- 「10」 大学生はほとんど県外に出て戻ってこない。卒業時に職の斡旋を行政でしてほしい。
- 「11」 飯綱町の企業に勤める従業員が飯綱町に住める施策を考えたらどうか。
- 「12」 結婚を期に町外に出る人も多いので転出を減らす方法を探す。
- 「13」 女性が住みたくなる町へ男女共同参画を積極的に取り組み、女性が活躍するためには、今後病児保育等を検討してほしい。

飯綱町議会第5次政策サポーター会議参加メンバー  
「飯綱町の輝く人口増対策」

1. サポーター

仲俣正人（西黒川）、相澤隆（芋川）、浅川洋（小玉）、田村吉幸（福井団地）、松下千恵美（芋川）、真鍋知子（坂口）

2. 議会議員

大川憲明（議長）

風間行男（座長）、原田幸長（副座長）、清水均、石川信雄、荒川詔夫  
渡辺千賀雄、原田重美

会議開催日

第1回7月27日（火）、第2回8月5日（木）

サポーターからの提案を最大限尊重し提言としました。